

Tone King

Royalist MKIII

取扱説明書



正規輸入代理店

Quanta Int'l.

Introduction

トーンキングのギターアンプ "Royalist MK III"をお選びいただきありがとうございます。オリジナルのRoyalistは、ブリティッシュサウンドの最高の要素を実現した最初のトーンキングアンプであり、最も愛されているアンプのひとつです。

この新しいRoyalist MKIIIは、その遺産を新たな機能と拡張機能で発展させ、甘く歌うJTM45から象徴的な "Plexi" サウンド、そして荒々しい "Super Lead" に至るまで、初期のブリティッシュ・トーンを忠実に再現します。Royalist MKIIIは、これらの象徴的なアンプが持つ本物のヴィンテージ性をとらえ、クリーンからエッジ・オブ・ブレイクアップ、ブライトでクランチなサウンドまで、音楽史を形作った無数のクラシック・ロック・トラックに見られるトーンを提供します。

Royalist MKIIIは、前モデルから3つの重要なアップデートを施しました：独立したVolumeとPull FAT機能を備えたデュアル・チャンネル、各チャンネルに割り当て可能な1964、1967、1970のボイシング・スイッチ、そして各チャンネルに独立したレベルを備えた伝説のアイアンマン・アッテネーター2基の搭載です。

両チャンネルとも、クラシックなトーン・コントロール回路（トレブル、ミッドレンジ、ベース）とプレゼンス・コントロールを共有しています。

Royalist MKIIIのコントロールの組み合わせは、美しいクリーンからオールドスクールなヘヴィ・ブリティッシュ・トーンまで、幅広いブリティッシュ・トーンのパレットを提供します。

ロイヤリストMK IIIをお選びいただき、ありがとうございます。

安全について 取扱説明書

この取扱説明書は、今後の参照用として、またこのTone Kingアンプの所有期間中、大切に保管してください。新しいアンプをお使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、ご理解ください。この取扱説明書には、アンプの使用とメンテナンスに関する重要な安全情報が記載されています。この取扱説明書に記載されているすべての警告記号や標識、そしてアンプ本体に印刷されている警告記号や標識に特に注意してください。



火災や感電を防ぐため、アンプを水や湿気にさらさないでください。
水源の近くで使用しないでください。



矢印の三角マークが付いた稲妻は、製品の筐体内に絶縁されていない「危険な電圧」が存在することを警告するためのもので、感電の危険を構成するのに十分な大きさである可能性があります。



感嘆符のような三角形のシンボルは、このアンプに付属のユーザーマニュアルに重要な操作とメンテナンス（整備）の指示があることを警告するためのものです

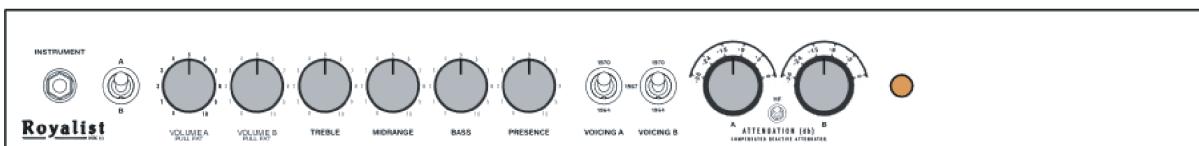
- 1 説明書を読む - 本製品を操作する前に、すべての安全および操作説明書をお読みください。
- 2 取扱説明書の保管 - 安全および取扱説明書は、将来参照できるように保管してください
- 3 警告にご注意ください - アンプや取扱説明書に記載されている警告は、すべて守ってください。
- 4 指示に従ってください - すべての操作および使用上の指示に従ってください
- 5 水と湿気 - アンプは、バスタブ、洗面器、キッチンシンク、洗濯槽、濡れた地下室、プールの近くなど、水の近くでは使用しないでください。

- 6 カートとスタンド - アンプは、メーカーが推奨するカートまたはスタンドと組み合わせてのみ使用してください。アンプとカートの組み合わせは、注意して移動してください。急停止、過度な力、凹凸のある場所などでは、アンプとカートの組み合わせが転倒する恐れがあります。
- 7 壁または天井取り付け - 製品は絶対に壁や天井に取り付けないでください。
- 8 熱 - アンプは、ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、熱を発する他のアンプ（アンプを含む）などの熱源から離れた場所に設置してください。
- 9 電源 - 本製品は、定格ラベルに記載されているタイプの電源からのみ操作してください。ご自宅への電源供給が不明な場合は、製品販売店または最寄りの電力会社にご相談ください。
- 10 接地または極性 - 本製品には、極性交流ラインプラグ（片方の刃がもう片方より太いプラグ）が使用されている場合があります。このプラグはコンセントに一方向にしか入りません。これは安全機能です。プラグをコンセントに完全に差し込めない場合は、プラグを逆にしてみてください。それでもプラグが入らない場合は、電気技術者に連絡して、古くなったコンセントを交換してください。極性プラグの安全目的を破らないでください。
- 11 電源コード保護 - 電源コードは、プラグや便利なレセプタクルに対応するコードや、アンプから出るコードに特に注意し、その上に物を置いたり立てかけたりして歩いたり挟んだりしないように配線してください。
- 12 クリーニング - アンプのクリーニングは、メーカーが推奨する方法でのみ行ってください。水で少し湿らせた布で拭いてください。アンプ内部に水が入らないようにしてください。
- 13 不使用期間 - 長期間使用しない場合は、アンプの電源コードをコンセントから抜いてください。
- 14 物体と液体の進入 - 物が落下したり、開口部から液体が筐体内にこぼれたりしないように注意すること。
- 15 サービスを必要とする損傷 -
以下のような場合は、資格のあるサービス担当者にアンプの修理を依頼してください：
- A. 電源コードまたはプラグが損傷している。
 - B. 物が落下した、または液体がアンプにこぼれた。
 - C. アンプが雨にさらされた。
 - D. アンプが正常に動作しない、または性能に著しい変化が見られる。
 - E. アンプを落としたり、筐体が破損した。
 - F. アンプに真空管の交換またはバイアスが必要
- 16 修理 - 使用者は、取扱説明書に記載されている以上の修理をアンプに対して行わないでください。
その他の整備はすべて、資格を有するサービス担当者に依頼してください。
- 17 換気 - キャビネットのスロットと開口部は、換気のために設けられ、製品の信頼性の高い動作と過熱からの保護を保証します。開口部を塞いだり、覆ったりしないでください。ベッド、ソファー、敷物などの上に製品を置いて開口部を塞いではありません。本製品は、本棚やラックなどの作り付けの場所に設置しないでください。
- 18 アタッチメント - 製品メーカーが推奨していないアタッチメントは危険ですので使用しないでください。
- 19 付属品 - 不安定なカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルの上に本製品を置かないでください。製品が落下し、子供や大人が重傷を負ったり、製品に重大な損傷を与える恐れがあります。
- 20 雷 - 雷雨の前や、長期間使用せずに放置する場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。これにより、雷や電源サーバーによる製品の損傷を防ぐことができます。
- 21 交換部品 - 交換部品が必要な場合、サービス技術者がメーカー指定の交換部品を使用しているか、元の部品と同じ特性を持っていることを確認してください。無許可の代用品は、火災、感電、その他の危険を招く恐れがあります。
- 22 全チェック - 本製品のサービスまたは修理が完了したら、サービス技術者に安全チェックを依頼し、製品が適切な動作状態にあることを確認してください。
- 23 ヒューズ - リアパネルに表示されている正しい定格とタイプのヒューズを必ず使用してください。適切な定格ヒューズは、本機を使用する国の AC ライン電圧によって決まります。

取扱説明書 目次

1 フロントパネル・コントロール	4
2つのプリアンプ・チャンネル - チャンネルA & B	4
チャンネル・セレクト・スイッチ	4
ボリューム・コントロール (A & B)	4
トーン・コントロール	4
プレゼンス・コントロール	4
ボイシング・スイッチ	5
アッテネーター・コントロール (A & B)	5
フットスイッチ	5
2 サウンドのダイヤルイン	5
セッティングポイント	5
アッテネーター使用上の注意	6
3 バックパネル・コントロール	6
AC電源	6
メインヒューズ	6
プレートヒューズ	7
電源スイッチ、スタンバイスイッチ	7
フットスイッチ	7
インピーダンス・スイッチ	7
スピーカー・ジャック	7
ラインアウト	7
4 Ironman/II アッテネーター	7
アッテネーターの目的	7
アッテネーター・コントロール	7
アッテネーターの使い方	8
HF コンプ・スイッチ	8
5 自宅で素晴らしいサウンドを	9
音響環境の影響	9
フロア・リフレクションズ	9
アンプの設置場所	9
カーペット	9
バックワード・アンプ・トリック	9
ヘルプ	9
6 チューブの取付と交換	10
チューブタイプの選択	10
チューブの取り付け	10
出力管の交換	10
チューブの品質	10
7 カスタム・セレッション "1660" 12インチ・スピーカー	11
8 保証	11

1 フロントパネル・コントロール



2つのプリアンプ・チャンネル - チャンネルA & B

Royalist MKIIIには、2つのチャンネルを切り替えるフットスイッチ (A & B) があります。各チャンネルは、独立したボリューム (ゲイン) コントロール、3ポジションの「Era」ボイシング・スイッチ、独立したアッテネーター・ロータリー・コントロールを備えている。両チャンネルともトーン・コントロールとプレゼンス・コントロールは共通。

チャンネル・セレクト・スイッチ

フットスイッチを使用しない場合に、チャンネルAまたはBを選択します。

ボリューム・コントロール (A & B)

2つの独立したボリューム・コントロール (A&B) は、プリアンプのゲイン量を調整します。

回路です。各ボリューム・コントロールにはプル・ファット (PULL FAT) 機能があり、これを引くと、プリアンプの最初のゲイン・ステージでより多くの低域が得られます。

トーン・コントロール

これらのコントロールは、他のほとんどのギターと同じように動作するため、なじみがあるはずです。Trebleノブで高域を、Bassノブで低域を、Midrangeノブで低域と高域の間の周波数をコントロールします。Royalist MKIIIはノン・マスター・ボリューム設計で、オーバードライブとディストーションはプリアンプとパワーアンプの両方から一定の割合で発生します。これは、オーバードライブとディストーションをプリアンプとパワーアンプの両方から一定の割合で発生させることを意味します。

プレゼンス・コントロール

Presenceノブは、非常に高い周波数 (Trebleコントロールの範囲より上の周波数) のレベルを調整します。Presenceノブを上げると、予想通り、非常に高い周波数のレベルが上がります。しかし、プレゼンス・コントロールはアンプの「フィール」にも影響を与えます。高めに設定すると、アンプはよりパンチのある "生" サウンドになり、低めに設定すると "トゲトゲしさ" が減り、より "圧縮された" フィーリングになります。プレゼンス・コントロールは、特定の部屋やセッティングに合わせてサウンドを調整するのに役立ちます。一般的なルールとして、広い部屋ではプレゼンス・コントロールを高めに設定し、自宅では低めに設定するのが適切でしょう。

ボイシング・スイッチ

1964年、1967年、1970年の3ポジションの "era" ボイシング・スイッチを各チャンネルに装備。プリアンプ、トーン・スタック、ネガティブ・フィードバック (パワー・アンプ) を、最もポピュラーなヴィンテージ・ブリティッシュ・アンプ3機種からお選びいただけます。

1964

バランスのとれたトレブル・レスポンス、低めのゲイン、ヴィンテージJTM45やBluesbreakerのようなアタックを実現。

1967

ヴィンテージ "Plexi" の鮮明なトレブル・レスポンスとアグレッシブなアタックを実現。

1970

Royalist MKIIIの最高ゲイン設定により、怒涛の "Super Lead" サウンドを実現。

アッテネーター・コントロール (A & B)

Royalistには、このモデルのために設計された各チャンネル用のIronman-II精密アッテネーターが内蔵されています。このアッテネーターにより、アンプの自然なオーバードライブサウンドとフィーリングを維持したまま、アンプのボリュームレベルを下げることができます。このアンプのトーンとフィールは、ブリアンプの歪みとパワーチュープの歪みが一定の比率を保つことで最適になるため、アッテネーターはそのバランスを保ちながら音量レベルをコントロールする最良の方法なのです。

このアッテネーターは、精密に調整されたリアクティブ・ロードとボリューム補正回路を使用し、非常に小さなボリュームでもアンプの自然なトーンとフィーリングを最も良く保ちます。これは、高い評価を得ているIronman-II Miniスタンドアローン・アッテネーターと同じ一般的なアプローチです。

オーバードライブ・トーンやディストーション・トーンをロー・ボリュームで生成するには、様々なアプローチがあります。例えば、マスター・ボリューム回路や、London Power Scalingのようなパワー・リダクション・スキームは、どちらも他ブランドの様々なアンプ・モデルで成功裏に使用されてきました。しかし、Royalist MKIIIが目指すヴィンテージ・ブリティッシュ・トーンには、内蔵のIronmanのような良質なアッテネーターが、非常に小さな音量でもトーンとフィーリングを維持する最良の方法です。

アッテネーターは、スピーカーに送られるパワーの量を決定しますが、アンプの出力段自体の動作には影響しません。アッテネーターは、スピーカーに送られずに出力管で発生した余分なパワーを吸収し、消散させます。

アッテネーターはアンプ出力とスピーカージャックの間に内部接続されています。ただし、アッテネーターの入力にはアクセスできないため、内蔵Ironmanアッテネーターを使って他のアンプの出力を減衰させることはできません。

フットスイッチ

フットスイッチの LED は、選択されているチャンネルを示します。LEDが点灯している場合、チャンネルBが選択されています。LEDが消灯している場合、チャンネルAが選択されています。

4 サウンドのダイヤルイン

これまでのトーンキングモデルは、主に1960年代のフェンダークリーン・サウンドをベースにしてきました。

Royalistは全く異なるアンプで、60年代後半から70年代前半のブリティッシュ・アンプのトーンとフィーリングを再現するように設計されています。そのため、Royalistは他のモデルとはかなり異なるアンプで、ボイシングもトーン・パレットも全く異なります。

ロイヤリストのダイヤルは非常にシンプルです。ロイヤリストの最も優れた特徴を示すいくつかのセッティングをご紹介します。

セッティングポイント

ここに示したセッティングは、どのようなギターを使用している場合でも、基準として最適です。Royalistに慣れるためには、これらのセッティングから始め、各コントロールを順番に変更してみて、その効果を確認することをお勧めします。

Voice	Volume	Treble	Midrange	Bass	Presence
1964	5	5	5	5	5

ギターのボリューム・コントロールを絞ってみて、マイルドなオーバードライブ・トーンがどのようにクリーン・トーンへ変化するのかを感じてみてください。オールド・マーシャルの "プレキシ" をクランチでタイトなロック・トーンに設定する一般的な方法は、以下のようなものです(下図)。極端なセッティングに見えますが、Royalistでは、素晴らしいサウンドになります。

Voice	Volume	Treble	Midrange	Bass	Presence
1967	10	10	10	2	2

Royalistはノン・マスター・ボリューム・アンプで、ボリューム・コントロールだけでアンプの信号レベルを決定します。そのため、ダイヤルを合わせるのが簡単です。クリーン・トーンを作りたいときはボリュームを絞り、ディストーションを作りたいときはボリュームを上げる。簡単ですが、これには限界があります。このような設計では、オーバードライブやディストーションは、アンプが最大出力パワーを発生させているときのみ効果を得られます。

マスター・ボリュームがないほとんどのアンプにとって、これは問題である。耳をつんざくような大音量で初めて音が割れ始めるので、小さなクラブや自宅ではあまり役に立ちません。そのため、RoyalistにはIronmanパワー・アッテネーターが搭載されています。アイアンマンは、機能的にはアンプ出力とスピーカーの間に接続される外部パワー・アッテネーターと同等と考えてよいでしょう。その目的は、アンプをフル出力で動作させながら、そのパワーのほんの一部だけをスピーカーに送ることです。このように動作させることで、非常に小さな音量でもアンプのトーンやフィーリングはかなり保持されます。

必要なサウンドを必要な音量レベルで得るために、VolumeとAttenuationコントロールの使い方を理解することが重要です。一般的に、VolumeとAttenuationは2つの異なる機能を果たすと考えることができます。ボリューム・コントロールでオーバードライブやディストーションの量を調整し、アッテネーターで必要な音量レベルを調整します。

クリーン・トーンの場合、さらに考慮すべきことがあります。まずアッテネーターを0db（バイパス）に設定し、Volumeコントロールで好みのボリューム・レベルを設定します。これでヘッドルームが最も広くなります。しかし、非常に狭い部屋で演奏する場合や、ボリューム・レベルを非常に低く抑える必要がある場合は、アッテネーターを数クリック下げて、ボリューム・コントロールをもう少し上げると、少しウォームでファットなサウンドになります。

アッテネーター使用上の注意

0dbの位置では、アッテネーターは完全にバイパスされ、スピーカーは出力トランスの2次側に直接接続され、信号経路に追加の回路はありません。Ironmanのアッテネーターは、アンプ回路のトーンを変えることなく出力パワーを下げるという優れた働きをしますが、小音量時には他の変数が作用し、明らかにトーンに変化が生じます。

以下に、注意すべき要因をいくつか挙げます。

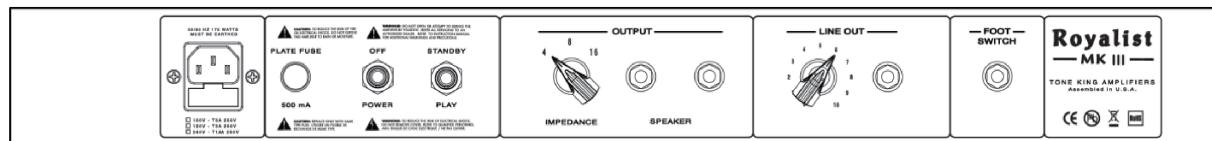
スピーカーのブレイクアップとコンプレッションは、大音量で鳴らしたときのアンプのトーンとフィーリングに大きく影響します。

低出力設定では、スピーカーの反応は異なり、高出力時のようなブレイクアップやコンプレッションは起こりません。

音量が小さいと、アンプを大音量でチューニングした場合よりも、ギターの弦を強く叩き、よりアグレッシブに演奏する傾向があります。

音量を下げるときも自分の演奏スタイルを維持できるようになるには、慣れるまで時間がかかるかもしれません。

3 バックパネル・コントロール



AC電源

必ずアース付きのACコードを使用し、アンプに適切なアースが接続されていることを確認してください。アンプへのアース接続を持ち上げたり、壊したりしないでください。

メインヒューズ

このヒューズは、AC レセプタクルの下にあるコンパートメントにあります。リアパネルに表示されているタイプと定格のものだけを交換してください。このヒューズが切れた場合、ほとんどの場合、真空管の不良が原因です。このヒューズが常に切れている場合（新品の真空管を使用している場合でも）、アンプに深刻な問題が生じている可能性があります。その場合、直ぐにアンプの診断を依頼する必要があります。

プレートヒューズ

標準的な2A Slo-bloヒューズを使用すること。ヒューズホルダーはAC入力に内蔵されています。

電源スイッチ、スタンバイスイッチ

アンプの電源を入れる際は、演奏前に真空管を約1分間ウォームアップさせることをお勧めします。

フットスイッチ

フットスイッチとアンプを付属のケーブル、または標準的な1/4インチのモノラルケーブルで接続します。

モノケーブルフットスイッチにより、チャンネルAとチャンネルBの切り替えを足元でコントロールできます：

チャンネルスイッチ：LED 点灯 = チャンネル B

チャンネル・スイッチ：LED消灯 = チャンネルA

インピーダンス・スイッチ

このロータリー・スイッチは、アンプの出力をキャビネット またはキャビネットに合わせるために使用します。

インピーダンスの組み合わせ適切なアッテネーター・レベルとサウンドを得るためにには、使用するキャビネット（またはキャビネット）のインピーダンスに合わせて適切なインピーダンスを選択することが重要です。

スピーカー・ジャック

これらの1/4インチジャックは、スピーカーのキャビネットに接続されます。ロイヤリストMKIIIは4Ω、8Ω、16Ωのスピーカーキャビネット（または適切な組み合わせ）で動作するように設計されています。ロータリーインピーダンスセレクトスイッチは、使用するスピーカーの組み合わせに合わせてください。

ラインアウト

パワーアンプから直接出力されるローレベルのハイインピーダンス信号です。この信号は録音補正された信号ではなく、一般的にいくつかのタイプのステレオセットアップに使用されます。

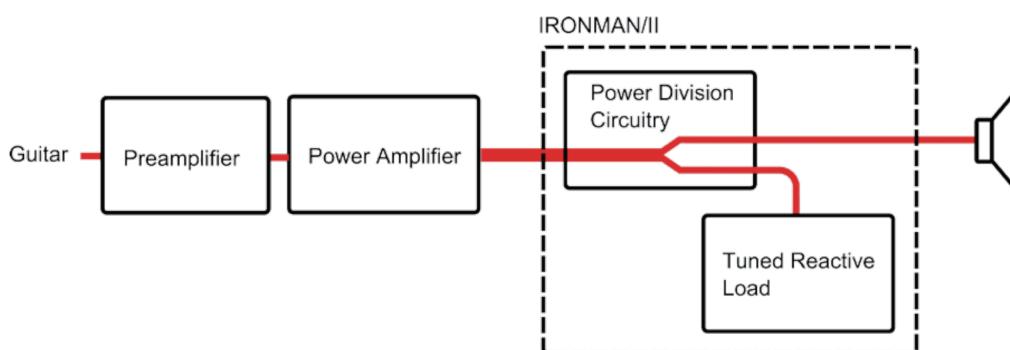
4 Ironman/II アッテネーター

アッテネーターの目的

Royalistは、オーバードライブやディストーションでドライブさせると、ほとんどのサウンドが歪むように設計されています。

歪みは出力管（とフェイズインバーター）で発生します。出力段の歪みは、プリアンプで発生する歪みとは異なるサウンドと感触を持っており、これがRoyalistのサウンドの大きな理由です。このような設計の問題点は、オーバードライブや歪みを発生させる唯一の方法は、出力段を最大出力までブッシュすることであり、つまり非常に大きな音量になることです。このレベルの音量は多くの状況において現実的ではないため、オーバードライブ・パワー管の素晴らしいサウンドを維持しながら音量レベルを下げる方法を見つける必要があります。

出力管に最大限の出力パワーを発生させながら、音量レベルをコントロールする最善の方法は、アッテネーターを使用することです。アッテネーターは、アンプが生成するパワーをスピーカーと特別に設計された負荷回路で分割する回路です。そうすることで、下図のように、スピーカーに送るパワーの量を調整し、残りのパワーは負荷回路で吸収することができます：



アッテネーター・コントロール

前ページの図から分かるように、アッテネーター・コントロールは、チャンネルごとにアッテネーター・レベルを選択するロータリーノブ1つと、HF Compミニトグルスイッチ1つで構成されています。Attenuation ダイヤルでは、0dbが最も大音量の設定です。この設定では、アッテネーターは完全にバイパスされ、スピーカーはアンプの出力に直接接続されます。-36dbは最も静かな設定です。この設定では、出力管で生成されたパワーのほとんどがアッテネーターで吸収され、スピーカーには数十ミリワットのパワーしか送られません。

アッテネーターの使い方

まず、アッテネーターの基本的な使い方から説明します。実用的にはAttenuation "ノブ"は、"Master Volume" コントロールと同じ機能を果たすと考えることができます。つまり、"Volume" コントロールでプリアンプのゲインやオーバードライブ/ディストーションの量を調整し、"Attenuation" ダイヤルで出したい音量レベルを設定します。この動作を確認するために、実験してみるのもよいでしょう。

例えば、Aチャンネルを選択し、アンプを次のように設定してみてください：

Voice	Volume	Treble	Midrange	Bass	Presence	Attenuation	HF Comp
1964	4	5	5	5	5	-24db	off

アンプを通して演奏しながら、Volumeコントロールを少し上下させてみてください。Volumeコントロールを少し変えるだけで、音色は多少歪みますが、部屋の音量レベルにはあまり影響しないことがお分かりいただけるでしょう。その理由は、アンプの出力段は、アンプがブレイクアップ寸前であっても、すでに最大出力を発生しているからです。このポイントを超えてVolumeコントロールを上げると、出力段はそれ以上のパワーを生み出すことができなくなり、ただオーバードライブが強くなるだけです。

この実験を試した後、ボリューム・コントロールをスタート地点の4に戻し、アッテネーション・ノブを調整してみてください。部屋の音量レベルは変わりますが、オーバードライブやディストーションの量は変わらないことがわかるでしょう。これがアッテネーターの目的です。

HF コンプ・スイッチ

内蔵のIronmanは、Attenuationノブを0から最大設定の-36dbまで回すと、EQカーブとコンプレッション/プレゼンスの量を段階的に調整する特別な補正回路を内蔵しています。HF Compスイッチは、HFとOFFの2つの異なる補正レベルを選択できます。HFに設定すると、存在感が増し、明るいサウンドになります。OFFに設定すると、少しコンプレッションが強くなり、トップエンドが滑らかになります。

このスイッチの目的は、アンプのサウンドを部屋の音響特性に合わせることです。部屋の特性は、大音量時よりも小音量まで減衰させた方が、サウンドに大きな影響を与えます。2段階の補正を設定することで、部屋の特性に合わせてプレゼンスとコンプレッションを調整することができます。例えば、非常に広い部屋で演奏する場合は、Normal設定を選ぶとよいでしょう。また、アンプの音が濁りがちな、反射の多い広い部屋で演奏する場合は、Max設定を選ぶとよいでしょう。

適切なセッティングは個人的な好みの問題なので、両方を試してみて、最も魅力的なものを選んでみてください。

5 自宅で素晴らしいサウンドを

音響環境の影響

大きな部屋や大きなステージで演奏する場合、アンプから素晴らしいサウンドを得るのは簡単です。一般的に、このような環境ではアンプをフルパワーにするだけで、素晴らしいサウンドが得られます。自宅や小さな部屋での演奏は話が別です。このような場合、部屋の音響特性がアンプ以上に影響し、アンプから聴こえるサウンドに現実的な問題を引き起こすことがあります。狭い部屋で起こり得る問題には、多くの種類があります。ここでは、それらに対処する方法をいくつかご紹介します：

フロア・リフレクションズ

狭い部屋で、アンプを広葉樹やタイル、コンクリートの床の上に置いている場合、アンプの前の床が反射して、アップミッドレンジがキツく聴こえることがあります。この問題を解決するには、アンプの前に小さなカーペット（またはドアマットなど）を敷いてみてください。

アンプの設置場所

まず始めに、インペリアルは床に直接置いたときが常にベストであることに留意すべきである（後に述べる1つの例外を除く）。床から離して、スタンドやその他の装置の上に置くと、音色のバランスが最適になりません。必要以上に薄く、明るい音になってしまいます。

次に、部屋のどこにアンプを置くか、そしてリスニングポジションに対するアンプの向き（アンプが自分に向いているか、自分から離れているか）によって、聴こえるサウンドが大きく左右されることがわかります。

部屋の中でアンプをいろいろな場所に移動させ、それぞれの場所でアンプを鳴らしてみて、最も良い音が出る場所を見つけることを強くお勧めします。

また、オンアクシス（自分に向けて直接聴く）かオフアクシス（自分から離して聴く）かによって、アンプのサウンドが劇的に変化することにお気づきでしょう。私は一般的に、ややオフアクシスなリスニングポジションをお勧めします。ご自分のリスニングルームに最適な向きを見つけるため、いろいろ試してみてください

カーペット

カーペットが問題を引き起こすこともあります、高域をロールオフしてアンプの音を暗くするという単純なものではありません。多くの場合、カーペットは中音域のある部分に凹みを生じさせ、中音域の下側に穴を空け、アンプのサウンドをトップエンドでキツく、もろいものにしてしまいます。これは通常、アンプを部屋の別の場所に移動してもどうにもなりません。私が見つけた唯一の解決策は、アンプを床から数センチ上げることです。そうすることで、ボトムエンドが多少損なわれるかもしれません、ミッドレンジのレスポンスが滑らかになるというプラスの効果がそれを補って余りあります。

バックワード・アンプ・トリック

小さな部屋では音響特性に問題があり、最高のアンプ・サウンドを得るために、より思い切った対策を講じる必要があります。ステージで使われているのを見たことがあるかもしれないトリックを紹介しよう。私のようにロイ・ブキャナンのファンなら、アンプを後ろ向きに置き、アンプの背面が客席を向くようにしたライブ・パフォーマンスのビデオを見たことがあるかもしれません。彼がライブでこのようなことをする理由は、ここで私たちが懸念していることは多少異なりますが、それでも、狭い部屋でアンプの音に問題がある場合は試してみることをお勧めします。アンプのアップミッドレンジのピークな音や、部屋全体が明るすぎる音に悩んでいる場合は、アンプの背面が自分の方を向くようにアンプの向きを変えてみてください。そうすることで、明るい部屋でも大きな違いが生まれます。

ヘルプ

これまで、アンプをオーバードライブやディストーションに追い込む場合に、アッテネーターを使ってボリュームをコントロールすることを説明してきました。しかし、狭い部屋でのクリーントーンにも大いに役立ちます。通常、大音量で鳴らせる部屋では、クリーン・トーンをダイヤル・インする際、アッテネーター・ノブを0dbに設定するか、アッテネーターをバイパスします。こうすることで、常にヘッドルームが最大になり、明瞭度とダイナミクスが最大になります。しかし、部屋の中でアンプのサウンドがキツく聞こえたり、Volumeノブの設定を1と2の間にしているためにボリューム・コントロールが難しい場合は、アッテネーターが役立ちます。HF CompスイッチをMaxに設定した状態で、アッテネーターを数段下げて（例えば-15db）、Volumeコントロールを少し上げて補正してみてください。アップミッドが滑らかになり、存在感を失うことなくトーンが太くなるのがわかるはずです。

6 チューブの取付と交換

チューブタイプの選択

現在、推奨するチューブタイプは以下の通りです：

No.	Type and Brand	Function
V1	12AX7	A (Chan A input) B (Chan B input)
V2	12AX7	A/B 2 nd gain stage/Cathode Follower
V3	12AX7	A/B Phase Inverter
V4-V5	EL-34	Output Tubes
V6	5AR4/GZ-34	High Voltage Rectifier

EL-34 Output Tubes

このアンプの出力管はEL-34のマッチドペアです。出力管のペアを交換する場合、適切な出力が得られるようにバイアスを調整する必要があります。内部にはバイアス・コントロールとバイアス・テスト・ポイントがあります。バイアス調整は、有資格のサービス技術者が行ってください。

12AX7 Tubes

このアンプは、3 × 12AX7 または同等のプリアンプ管用に設計されています。プリアンプ管にはいくつかのメーカーがあります。各製造元のプリアンプ管は、それぞれ独自のサウンド特性を持っています。音の好みはユーザー次第です。

5AR4,GZ-34 Tubes

5AR4、GZ-34は、このアンプの高圧電源用の整流器です。適切な結果を得るために、このアンプにはこのバージョンの真空管のみを使用することをお勧めします。

チューブの取り付け

真空管は正しい向きで取り付けてください。小型のオールガラス管には、ピンのリングに空白があり、シャーシにある管ソケットの管ピンのリングの空白と一致させなければならない。ベークライト・ベースの大型チューブは、チューブ・ピンのリングの中央に割り出しキーの付いた小さなシリンダーがあり、この割り出しキーをシャーシ上のソケットの対応するスロットに合わせる必要があります

出力管の交換

Royalistの出力段はクラスA/B (グリッドバイアス回路) です。交換する真空管がアンプ内の真空管と同じマッチング・グループでない限り、出力管を交換する際にはバイアス調整が必要です。内部にはバイアス調整用のトリム・ポテンショメーターとバイアス・テスト・ポイントがあります。この手順は、有資格のサービス技術者が行うことをお勧めします。

チューブの品質

現在製造されている真空管は、中国、ロシア、チェコ共和国で製造されており、真空管製造の "栄光の時代" に米国メーカーが製造した真空管と同じ品質基準で製造されているわけではない。私たちミュージシャンは、その音色のために真空管を選ぶが、最近手に入る真空管は不完全な装置である可能性があり、アンプ全体の中で最も信頼性の低い部品であることは間違いない。真空管の問題は一般的に、パチパチというノイズやマイクロフォニックスとして現れます。このノイズは、連続的、散発的、機械的な振動に反応して、あるいは、特にコンボ・アンプでは、演奏に反応して発生することがあります（例えば、音を叩いたときだけパチパチというノイズが発生するなど）。

当社では、すべての真空管を徹底的なバーンインとテストにかけることで、真空管が完全に仕様に適合し、完璧に動作することを確認しています。しかし、真空管の故障のほとんどは、その寿命の初期に発生し、アンプが輸送中に受ける揺れや衝撃のために発生する可能性があることにご注意ください。TONEKINGでは、徹底的なテストを行っていますが、初期の真空管の不具合は、そのようなテストでは必ずしも見つけることができません。最初の2ヶ月ほどは、どの真空管セットにとっても最も不安定な時期です。製造上の欠陥のほとんどは、最初の2ヶ月で明らかになりますが、多くは、バーンイン期間後でさえ、初期テストでは検出できません。

この期間中、アンプのノイズ、クラックリング、ハム音、その他の異常な動作に気づいたら、それは真空管の欠陥によるものである可能性が高いので、デバッグする必要があります。

7 カスタム・セレッション "1660" 12インチ・スピーカー(Combo)

Royalistコンボの心臓部には、Royalist MKIIIアンプの複雑な倍音、豊かなヴォーカル・ミッドレンジ、美しいディテールのトップエンド、ウォームなローエンドなど、クラシックなトーンとレスポンスを引き出すために入念にポイシングされたカスタムTone King 12" Celestionスピーカーが搭載されています。

8 保証

トーンキングをお選びいただきありがとうございます。トーンキングは、世界有数の最も信頼性の高いハンドワイヤリング・オールチューブ・アンプとスピーカー・キャビネットです。当社は、出荷前に各製品に対して徹底的なテストを実施しています。万が一、アンプに問題が発生した場合は、別紙の保証書をご参照ください。

アンプ

Tone Kingの保証を利用するには、購入証明書を保管してください。本保証は、事故、怠慢、乱用、通常および摩耗、災害、誤用、乱用、過度のパワーアップ、過失、不適切な梱包または発送手順、トーンキングが書面で承認または承認していないサービス、修理、製品への改造によって生じた損傷を修理するためのサービスや部品には適用されません。**アンプの改造は保証を無効にします。**本製品が上記の保証とのおり材料または製造上の欠陥がある場合、修理または交換となります。

**注意：ご自身でアンプの修理、改造、サービスを行わないでください！
すべての安全に関する通知、警告、指示については、取扱説明書をお読みください**

他の真空管アンプと同様、Tone King にも非常に高い電圧がかかっています。アンプからシャーシを取り外さないでください。すべての修理およびサービス作業は、販売店を通して代理店の許可の元、行って下さい。許可なく修理を行った場合、保証は無効となります。

チューブ

Tone Kingは、Tone Kingに使用されている特定のチューブが、購入日から90日間、材質および製造上の欠陥がないことを、最初の購入者に保証します。日付入りの販売レシートがあれば、この保証の適用範囲となります。この真空管保証は、最初の小売販売日から90日後に自動的に終了します。この真空管保証は、他のすべての明示的な保証に代わるものです。90日間の保証期間内に真空管が故障した場合、販売店へ連絡の元交換または修理を行って下さい

偶発的または結果的損害

Tone Kingは、いかなる場合においても、Tone King製品の使用または使用不能から生じる偶発的または派生的損害について、たとえ Tone Kingのディーラーがそのような損害の可能性について知らされていたとしても、あるいは他のいかなる当事者によるその他の請求についても責任を負いません。

トーンキングを選んでいただき、ありがとうございます！



正規輸入代理店

Quanta Intl.

サポートはこちら

<https://quanta-intl.jp/support/>

